

令和元年
発刊号
年2回発行



広報誌発刊のごあいさつ

院長 中井章人

このたび、当院の広報誌「ほっと多摩」を発行することになりました。

当院は、昭和52年に東京都などの要請により日本医科大学の4番目の付属病院として開院いたしました。以来42年間、南多摩地域の基幹病院として皆さまの健康を支えるお手伝いをさせていただいてまいりました。

今日までこの地で診療を継続できたことは、ひとえに地域の皆さまのご理解とご支援のおかげであると深く感謝申し上げます。当院は大学病院として高度な医療を提供していくことが求められておりますが、一方で地域の基幹病院として「災害拠点病院」「東京都がん診療連携拠点病院」「東京都指定二次救急医療機関」など、地域に根差した幅広い活動を行っております。

しかし、これからの医療は高齢化が進んでいることもあり、必要となる医療の質も大きく変化していきます。当然のことながら一病院で全

てを完結出来る訳ではありませんので、段階に応じて地域の医療機関や医師会、行政と緊密に連携して地域の皆さまのニーズに応えられるような体制を構築しています。皆さまが遠方に向くことなく、この地域で全ての医療が受けられるよう、地域連携強化にも尽力していきたいと考えております。これらが円滑に運用されるためには、皆さまのご理解とご協力が不可欠であります。

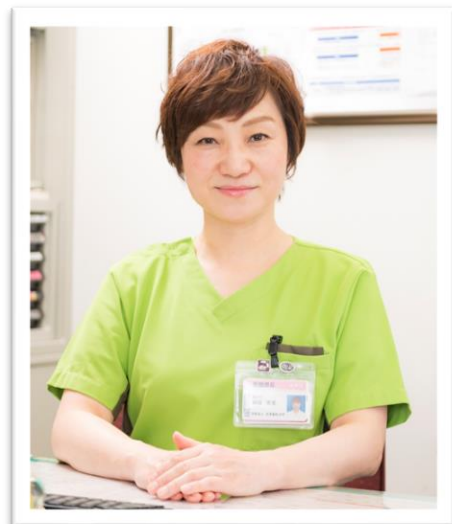
「ほっと多摩」では最新の医療情報や当院のトピックスなどをわかりやすく発信していきますので、地域の皆さまと私たちとの橋渡しになれば幸いです。お気づきの点がございましたら是非、ご意見をお寄せいただきたいと思います。皆さまとともにより良い病院、より良い地域にしていくことが出来ればと考えています。

今後とも宜しくお願いいたします。



看護部からのご挨拶

看護部長 緋田雅美



私たちは「いつも心にナースコールを鳴らさない看護」をテーマに、患者さまの気持ちに寄り添う看護師であることを目指しています。どんなに最先端の医療を追求しようと、高度な理論が背景にある看護を提供しようと、私たちが大切にしているのは「常に患者さまを第一に考える」という看護の基本理念です。



毎日の看護の中で、患者さまからのヘルプサインである「ナースコール」を鳴らすタイミングを予測し、「先回りしてケアを行う」「点滴を行っている患者さまのベッドサイドに行ったらトイレに誘導する」「他に何かありませんか？」と声をかける」など、ほんの少しの気付きで患者さまの気持ちに応えられるよう、目配り、気配り、心配りのできる看護師でありたいと思っています。

さらに、急性期病院の役割として、患者さまの回復への支援と共に、1日でも早く住み慣れた地域に戻れるよう、在宅医療に向けての先を見据えた看護の提供を行い、退院後も安心して療養生活を送ることができるよう心がけています。また、専門分野のトレーニングを積んだ多くの看護師が在籍しており、在宅医療に向け様々な医療者と連携し、お手伝いをさせていただきます。当院を利用される皆さまのお役にたてるように努めてまいります。



職員募集のお知らせ

当院では私たちと一緒に働いてくださるスタッフを募集しています。お気軽にお問い合わせください。見学会も随時実施しております。(勤務条件は要相談)

募集職種：看護師、看護補助者(看護助手) 問合せ先：042-202-8303 庶務課 人事係まで

診療科部長インタビュー

形成外科

今回、近隣の病院ではあまり見られない形成外科についてご紹介させていただきます。

形成外科の特徴について、部長の藪野雄大先生にインタビューしました。

『日本医科大学多摩永山病院に形成外科を開設してから約三年経ちますが、外来に初めて来た患者さんから「“せいけい”じゃなくて“けいせい”なのね!」「紹介されて初めて来たんだけど、何をみくれる科なんですか??」「ホク口を取るのって美容じゃなくて保険診療なんだ!？」とよく聞かれます。形成外科とは恐らく一般の方には一番知られていない科ではないかと思えます。他の科のように名前に臓器(消化器、循環器、皮膚など)が入っていないので、形成外科と聞いても何をしている科なのかピンとこないのではないのでしょうか。

われわれが扱っているのは、頭のとっぺんから爪先まで全ての皮膚にできた“なにか”です。その“なにか”とは、ケガ全般(切り傷、擦り傷、やけど、骨折以外の交通事故での傷)、顔の骨の骨折、できもの(粉瘤や脂肪腫など)、ホク口、先天奇形、皮膚ガン、盛り上がってしまったキズあと(肥厚性瘢痕、ケロイド)床ずれ(褥瘡)、治らない傷、糖尿病などに伴う足



藪野雄大 部長

の傷や手術や病気によって失ってしまったところを治す、などなど多岐に及びます。

多摩地域は形成外科が少ない地域であり、どこに行けば良いのか分からないということもあったと思われます。当科では全身麻酔対応も可能であり、疾患も幅広く網羅し取り扱っています。

2019年からは医局員も増員し、余裕をもって診療にあたっております。どうぞ気兼ねなくご相談ください。』

このように大変頼もしい先生達が形成外科として働いています。上記のような症状で、近隣の先生から紹介いただくか、当院に受診していただくかで診察できます。是非、お困りの際はご来院ください。

(インタビューアー 副院長 牧野浩司)



診療科の紹介

泌尿器科

部長 佐藤三洋

泌尿器科は佐藤、尾形医局長、守田医員、松岡医員の4名で外来・病棟・手術・夜間対応をおこなっています。対象疾患は泌尿器疾患全般です。特に力を入れているのが悪性疾患・結石性病変・排尿障害です。

泌尿器科では腎細胞癌・尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌などの悪性腫瘍を扱います。腎細胞癌は近年分子標的治療薬や免疫療法薬の開発が盛んです。



当科では腎癌研究会代表世話人の附属病院木村准教授と連携を取り治療しております。尿管癌・膀胱癌は血尿で来院された患者さまに即日膀胱鏡検査を実施、初診日に手術日を決めております。

また前立腺癌は日本人男性の罹患率が胃癌を抜き1位となり多くの患者さまが紹介受診されエビデンスに基づく治療を受けております。すべての泌尿器腫瘍に対してがん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師などのプロフェッショナルと連携を取り治療にあたっております。



体外衝撃波結石破碎装置

腰の痛み・脇腹の痛みで尿路結石を疑われた紹介患者さまは痛みが強く、いち早い治療が必要とされます。発作早期の体外衝撃波結石破碎術(ESWL)の実施を行っております。

当科では今後より一層地域の患者さまにご満足いただける医療を提供したいと思っております。気になることがあればお気軽に泌尿器科外来までご相談下さい。

泌尿器科連絡先：042-371-2111（代表）

内線2220・2403



永山キッズ・ドクター セミナー

去る8月3日(土)、当院C棟2階集会室において小学5・6年生を対象とした「永山キッズ・ドクターセミナー」を開催いたしました。

当院の副院長で消化器外科・乳腺外科・一般外科の牧野部長の講演があり、わくわくと緊張の中、実際に医療機器を使っでの体験となりました。先生は医師や看護師など当院の職員です。



集中、集中



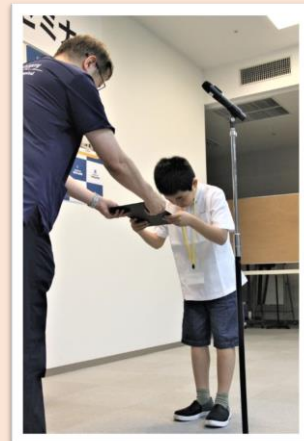
体験内容は内視鏡を使ったトレーニングと手術のシミュレーション、超音波検査、心肺蘇生、手指衛生をグループごとに順番で行いました。中でも人形を使っでの心肺蘇生は、上手くいくと人形の顔の色が変わるといった仕組みや、手術のシミュレーションは研修医が練習用として使用している機器のため、かなり本格的で血管を傷つけると画面が真っ赤に染まるなど臨場感もあり、みんな真剣に取り組んでいました。



かなりの重労働です。
疲れちゃったかな？



緻密な操作、緊張感がすごい！



未来のドクターに一歩前進！

最後は牧野副院長から記念写真が入った修了証が一人一人に手渡されました。夏休みの良い思い出となったのではないのでしょうか。これからも毎年開催していきたいと思います。

(永山キッズ・ドクターセミナー 事務局)



医療被ばくについての疑問にお答えします

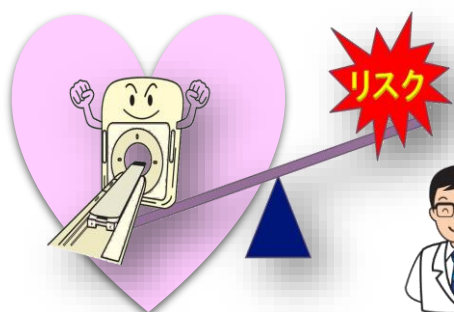


放射線検査で受ける被ばくが心配だわ？



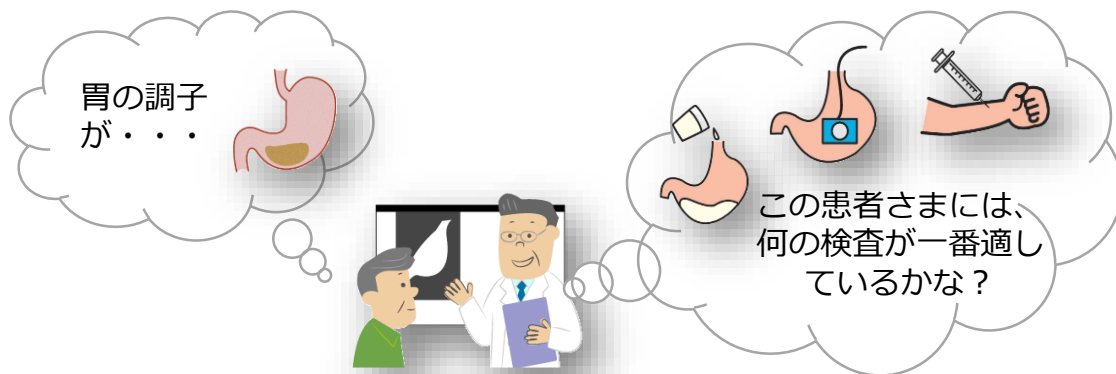
ご安心ください。検査の利益とリスクを考え、利益が十分に上回る場合に行われ、線量は必要最小限に管理されています。

1. 臨床的な利益が、被ばくや検査によるリスクを十分上回る場合にだけ行います。

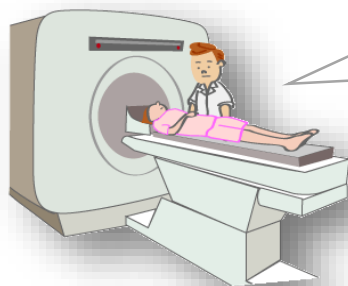


放射線を利用した検査や治療を行う場合、利益とリスクを総合的に考え、検査や治療の利益が十分に大きい場合にだけ行われます。被ばく線量は、患者さんの利益が大きければ許容されるリスクも大きくなりますが、患者さんの利益を最優先に考えて行われます。

2. 検査が必要な場合、放射線を使用しない代替診療と比較検討します。



3. 診療上必要最小限の線量で検査を行います。



放射線検査で使用される線量は、主に放射線技師が管理しています。患者さんの体型や検査の目的に合わせて、临床上必要な最小限の線量で検査を行います。

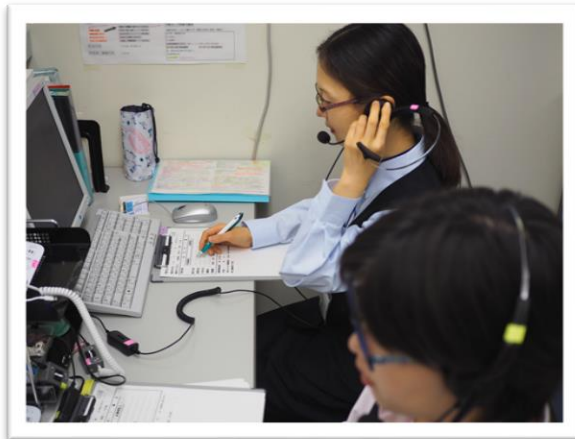
放射線診療は、検査の適応や線量の管理が適切に行われているから、安心してなんだね！



予約センターの紹介

かねてより、他医療機関から患者さまの診療予約等が取りづらいという声があり、当院の予約センターが今年2月に開設されました。そして予約をお取りいただいた患者さまにも来院した際スムーズに受診できるよう運用を見直しました。

当初は医療機関からの電話のみ対応させていたおりましたが、3月より係員を増員し、5月からは医療機関のみならず紹介状をお持ちの患者さま（ご家族さま）からの予約センターへの予約にも対応させていただきました。開設当初の2月は100件程度のお問合せでしたが、5月からは300件を超える問い合わせがあり予約確定の実績も150件ほどとなっております。医療機関からの予約の際は、是非、予約センターをご利用ください。また、7月からは「多摩市胃がん検診」の予約も受け付けております。



なお、放射線科、放射線治療科は医療機関からの予約のみ、皮膚科は予約制ではございませんのであらかじめご承知おきください。

紹介状をお持ちの患者さま

予約センター専用番号	042-202-8489（直通）	
予約受付時間	平日	9：00～17：00
	土曜	9：00～16：00

紹介状をお持ちでない患者さまにつきましては、従来通り各診療科外来で承ります。

番号	042-371-2111（代表）	
予約受付時間	平日	15：00～16：30
	土曜	14：00～15：30

皆さまから、ますます当院をご利用いただけますよう、スムーズな診察と治療を受けていただくために、予約センターは努力してまいります。

編集後記

今回、新たに広報誌「ほっと多摩」を発行することになり、広報委員会で「患者さまが知りたい情報って何？」「病院から発信したいトピックスは？」など、いろいろ検討しているうちに、季節は春から夏を過ぎ、秋になってしまいました。こんなに伝えることが難しいなんて、毎朝当たり前のように並んでいる新聞を作っている方の凄さを今更ながら感じました。第一号は、病院の紹介がメインになりましたが、今後は皆さまが知りたい情報をどんどん取り上げていきたいと思っておりますので、ご意見をいただければと思います。これからもよろしくお願いいたします。

広報委員会 事務局 komuyo@nms.ac.jp